

北海道港湾空港建設協会

会報

平成27年 1月

北のみなと

No.84



— 目 次 —

新春のご挨拶（北海道港湾空港建設協会 会長 宮崎 英樹）…………… 1

Report

港関係団体と北海道開発局が意見交換会を開催…………… 2
日本港湾空港建設協会連合会と北海道開発局が意見交換会を開催… 5
港関係団体連絡会と北海道開発局担当者が意見交換会を開催…… 8
経済と暮らしを支える港づくり全国大会を開催する…………… 9

受賞

北海道水産林務部 平成26年度 水産土木・森林土木工事等優秀業者表彰… 9

各種記事

我が社の安全衛生管理
 （葵建設㈱ 総務部次長 小幡 俊明）…………… 10
工事現場紹介「ウトロ漁港人工地盤建設工事」
 （岩倉建設㈱ ウトロ漁港人工地盤工事事務所 柴田 敏則）…………… 12
私の趣味「好奇心」
 （五洋建設㈱ 札幌支店 大下 哲則）…………… 14
根室港弁天島市杵島神社のボランティアについて
 （根室港湾事務所工事安全連絡協議会 幹事 真壁建設㈱ 山下 大介）… 16
礼文町豪雨災害時の港湾業務艇「りんどう」による支援運航…… 18
石狩湾新港で工事現場見学会を開催…………… 19
平成26年度 選奨土木遺産「松前港 福山波止場」
 （日本データサービス㈱水工部 石川 成昭）…………… 20

Topics

イベント

函館港に色鮮やかな巨大ツリー…………… 21
 小樽運河冬も周遊【小樽発】…………… 22
大型客船寄港
 コスタ・ビクトリア入港 新幹線がお出迎え…………… 23
 アムステルダム釧路港に初寄港…………… 24

Information

事務局だより…………… 25
広報委員会だより…………… 25



落石漁港は、根室半島の基部にあって、昭和26年6月に第1種指定（北海道）となり、昭和43年12月には第3種指定（直轄）となる。その後、昭和63年6月に浜松地区を分区指定した。北方四島及びロシア水域を含む太平洋北西部漁場におけるサケ・マス流し網漁業、サンマ棒受網漁業及びサケ定置網、タコかご及びコンブ等の沿岸漁業の生産・流通拠点となっている。

新春のご挨拶



北海道港湾空港建設協会 会長 宮崎 英樹

平成27年の年頭にあたり、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

北海道港湾空港建設協会は、昭和61年4月28日に設立され、今年30周年を迎えることとなりました。30年に及ぶ当協会の活動にたまわりました、会員、関係者の皆様の多大なご支援、ご協力に心より感謝申し上げます。

平成24年12月の衆議院議員選挙及び平成25年7月の参議院議員選挙において自由民主党が安定政権を獲得し、安倍政権の大胆な金融緩和と機動的な財政出動により経済の回復基調が強まりましたが、昨年、4月に実施された消費税の増税、円安による物価の上昇、天候不順などによる景気の下降が懸念されています。北海道経済においても、北海道電力の電力料金の大幅な再値上げによる道内経済全体に与える影響が懸念されるところです。

このような状況の中でも国が将来にわたり繁栄していくためには、国土を災害に強いものとしたうえで将来への展望を明確にし、諸施策を的確に実施していくことが必要であると考えます。公共投資を中心とした経済対策、国土強靱化対策など、将来にわたる計画的、安定的な公共投資政策が望まれるところです。

北海道は、農業の産出額、水産業の漁獲量・漁獲高も全国トップクラスの地位にあり我が国の食料基地となっております。この高い食料供給力を効率よく発揮し、災害時にも機能を発揮することができる港湾の整備を着実に実施することが、活力があり魅力がある北海道とするために極めて重要であります。

長期にわたる公共投資の縮減が一応納まった感があるものの、港湾空港関係建設業界は、事業量の減少、過度の受注競争による利益率の低下などにより厳しい経営環境が続いており、特に海洋土木工事の施工能力を継承していくことに苦慮しておりますが、社会資本を着実に整備、維持し、災害に速やかに対応できる体制を確立する建設業の役割は益々重要なものとなっております。

本協会の目的であります、港湾空港建設技術を開発、向上させ、港湾空港建設業の社会的地位の向上と健全な発展を図るとともに港湾空港整備の促進に寄与するため、会員の皆様のご理解とご協力をいただきながら諸課題に取り組んでまいり所存であります。

会員の皆様の一層のご支援ご協力をお願いするとともに、新しい年が皆様方にとりまして、希望に満ちた発展の年になりますことを心より祈念いたします。

港関係団体と北海道開発局が 意見交換会を開催

R13/H13

b/H0'

平成26年12月12日（金）札幌ガーデンパレスにおいて港関係団体と当協会の共催で、国土交通省北海道開発局と「港湾・空港・漁港事業に係わる要望・意見交換会」を開催した。

なお、当協会が要望した4項目のうち回答があったのは、当日、要望説明をした2項目のみであり、下記の回答要旨は、その回答内容を事務局で取りまとめたものを記載している。



北海道開発局



港関係団体

出席者

◎北海道開発局

港湾空港部長

港湾計画課長

港湾建設課長

港湾行政課長

空港課長

水産課長

港湾計画課港湾企画官

港湾建設課港湾保安保全推進官

水産課水産企画官

港湾建設課課長補佐

港湾建設課建設第2係長

川合紀章

中島靖

伊藤晃

矢本欽也

魚住聡

浅川典敬

佐々木純

早川哲也

鈴木一行

阿部勝

工藤博文

◎港関係団体

○北海道港湾空港建設協会

副会長

吉本正則

技術委員会 副委員長

○(一社)北海道建設業協会

港湾・漁港部会部会長

港湾・漁港部会副部会長

○(一社)全日本漁港建設協会

北海道支部長

○(一社)日本埋立浚渫協会

北海道支部長

技術委員長

○(一社)日本海上起重技術協会

北海道副支部長

○全国浚渫業協会

北海道支部長

○(一社)日本潜水協会

札幌支部長

○港関係団体連絡会

会長

宮本義憲

藤田幸洋

百瀬治

坂敏弘

佐見誠

石脇雅生

西村幸浩

藤田幸洋

堀松宏朗

中村弘之

北海道港湾空港建設協会 要 望 書

平素は、当協会の業務運営に関しまして格別のご指導ご高配を賜り、厚くお礼を申し上げます。

当協会は、昭和61年4月設立以来、港湾空港建設技術を開発・向上させ、港湾空港建設業の社会的地位の向上と健全な発展を図るとともに、港湾空港整備の促進に寄与することを目的として事業を行ってきたところです。

北海道においては、国内外との物流の殆どを海上輸送に依存するなど、港湾は極めて重要な社会資本になっております。

特に、我が国を代表する食料供給基地であり北海道の港湾が農水産品物流の拠点として貢献しております。

また、災害発生時の輸送拠点、クルーズ船観光の玄関口としての機能も期待されており、港湾の着実な整備が活力あり魅力のある地域となるために極めて重要であります。

会員各企業は、建設投資が急激に減少した状況の中で、港湾空港関係工事の施工能力を維持するため、一層の合理化などの経営努力を重ね、地域経済と雇用の安定を確保し、災害対応の重要な担い手になるなど、港湾空港建設業としての社会的重要性を認識し期待される役割を果たしていく所存であります。

会員各企業の現状を踏まえ、下記に懸案事項を取りまとめましたので各別のご理解とご高配を賜りますようお願い申し上げます。

要 望 事 項

1 平成27年度港湾空港関係予算の確保について

国際物流機能の強化、食糧供給力の強化、クルーズ船観光を通じた地域経済の活性化、離島交通の安定的確保を図るため、港湾施設の整備を推進するとともに適切な老朽対策を推進すること、水産物の流通・生産力強化、高付加価値化、輸出促進等の国際競争力の強化を図るため漁港・漁場の整備を促進することが必要と考えております。

また、国内・国際航空ネットワークの維持を図るため、空港施設の機能維持、向上を図ることが必要と考えております。

会員各企業の経営は、長期にわたる公共事業予算の抑制による事業量の減少と過度の受注競争による利益幅の低下傾向から厳しい状況が続いており、作業船の管理をはじめとする海洋土木工事の施行能力を維持することに苦慮しております。

これらの事情をご賢察のうえ、平成27年度の港湾空港関係予算につきましては、港湾空港建設業の健全な経営が可能となるよう、計画的かつ安定的な確保をお願い申し上げます。

また、北海道特有の冬期間における工事量の確保に必要な不可欠の平成26年度港湾空港関係補正予算（ゼロ国債予算を含む）の措置をお願いします。

【回答要旨】

北海道が国内の食糧基地になっていること、地域の産業や生活を支える拠点になっていることなどから、港湾の整備は重要である。平成27年度港湾整備予算要求は、前年度当初予算の3%増としている。平成26年度補正予算は、北海道にとって重要であり必要な予算の確保に努める。

空港整備予算要求は、安心・安全対策を中心に前年度の22%増の要求である。

北海道は、全国の水揚げの3割を生産する我が国最大の水産物供給基地であり、漁港整備事業として194億円を要求している。

2 適切な発注時期について

港湾、漁港における海上工事の施工は、気象、海象の影響を受けて品質と安全の確保に支障が生じる事態、季節で変化する漁業活動に伴い工事の施工が制限される事態、また、総合評価落札方式による落札決定が長引く場合があります。

適切な工程管理の下で適期の工事の施工を確保するため、早期発注、海域特性に配慮した工事の発注手続きをお願いいたします。

3 一般競争入札における調査基準価格の引き上げについて

一般競争入札における落札金額が、調査基準価格に近い金額となる傾向にあります。

平成25年度から調査基準価格の算定式が、直接工事費×95%＋共通仮設費×90%＋現場管理費×80%＋一般管理費×30%から、一般管理費×55%に引き上げられましたが、建設業が適正な利益を確保し安定的な経営を維持するため、更なる一般管理費の対象の引き上げをお願いいたします。

4 配置予定技術者の評価について

総合評価落札方式の施工能力等の評価項目における配置予定技術者について、同種工事の実績は過去15年間が対象になっているのに対し、工事成績評価は過去6年間が対象となっております。

これまでの長期にわたる発注工事量の削減に伴う受注工事量の減少に対応して、工事成績の対象年数の緩和及び管理技術者証を有する現場代理人について監理(主任)技術者と同等の工事实績、工事成績評価点を与える制度をお願いいたします。

【回答要旨】

工事成績対象期間を平成26年8月から4年間で6年間としたが、工事件数が減少していることなどから更なる期間の緩和措置の要望を担当部署に伝える。

平成27年度から現場代理人を監理技術者と同等に評価する方向とする。

以下、他協会の要望事項

(一社)北海道建設業協会 港湾・漁港部会

1. 公共事業予算の安定的・持続的確保について
2. 平成26年度予算の追加補正措置(ゼロ国債を含む)について
3. 防災・減災に不可欠な基盤施設の整備について
4. 工事の発注時期について

5. 地元建設企業への受注機会の確保について

(一社)全日本漁港建設協会 北海道支部

1. 防災減災対策の更なる推進について
2. 若手技術者・担い手の育成について
3. 早期発注及びゆとりある工期の設定について
4. 協会員への受注機会の確保について

(一社)日本埋立浚渫協会 北海道支部

1. 港湾関係公共事業について
2. 技術提案評価型(S型)工事の確保について
3. 技術提案評価型(S型)企業評価項目について
4. 配置予定技術者の工事成績適用について

(一社)日本海上起重技術協会 北海道支部

1. 平成27年度港湾関係予算の確保について
2. 地元企業への工事量の確保について
3. 登録海上起重基幹技能者の評価について
4. 作業船の保有及び代替建造に対する支援について
5. 実態に即した起重機船の回航・えい航費について

全国浚渫業協会 北海道支部

1. グラブ浚渫工事量の確保・増大について
2. 非自航作業船に掛かる固定資産税(地方税)の負担の軽減
3. 軽油引取税(地方税)の課税免除特例措置の継続

(一社)日本潜水協会 札幌支部

1. 港湾潜水作業にかかる事業量の確保について
2. 港湾潜水技術士資格の活用について
3. 「潜水工事」を建設業法に定める専門工事への追加認定について
4. 改正高気圧作業安全衛生規則への対応に関する支援について

日本港湾空港建設協会連合会と北海道開発局が意見交換会を開催

平成26年12月11日（木）ホテル札幌ガーデンパレスにおいて日本港湾空港建設協会連合会（日港連）と当協会の共催で国土交通省北海道開発局と意見交換会を開催した。出席者及び意見交換会の内容は以下のとおり。



北海道開発局



日港連

出席者

◎北海道開発局

港湾空港部長	川 合 紀 章
港湾計画課長	中 島 靖
港湾建設課長	伊 藤 晃
港湾行政課長	矢 本 欽 也
空港課長	魚 住 聡
農業水産部水産課長	浅 川 典 敬
港湾計画課港湾企画官	佐 々 木 純
港湾建設課 港湾保安保全推進官	早 川 哲 也
水産課水産企画官	鈴 木 一 行
港湾建設課課長補佐	阿 部 勝

◎日本港湾空港建設協会連合会

会長	川 島 康 宏
専務理事	幸 田 勇 二
技術委員長	大 滝 雅 宣
技術委員	高 木 幸 夫
技術委員会WG委員長	小 松 英 則
技術委員会WG委員	成 田 満
技術委員会WG委員	竹原洋一郎

◎北海道港湾空港建設協会

会長	宮 崎 英 樹
副会長	吉 本 正 則
副会長（技術委員長）	藤 田 幸 洋
副会長（広報委員長）	佐 見 誠
副会長（企画委員長）	西 村 幸 浩
技術委員会副委員長	宮 本 義 憲
技術委員（部会長）	中 村 弘 之 (日港連技術委員)
技術委員（副部会長）	石 脇 雅 生
技術委員	杉 本 義 昭 (日港連技術委員)
技術委員	手 塚 定 雄
技術委員	岩 城 儀 人
技術委員	竹 中 正
技術委員	柴 田 政 雄
技術委員	岡 崎 光 信
技術委員	高 柳 省 一
技術委員	市 来 隆

要 望 事 項

日頃より日港連の活動に深いご理解と温かいご指導を賜り、厚く御礼申し上げます。

当連合会は、「港湾空港建設技術の開発及び向上」と「港湾空港建設業の健全なる発展及び社会的地位の向上」を目的に掲げ、港湾空港整備を担う建設業者が加入する全国の都道府県協会を結集して1984年（昭和59年）に設立され、以来31年を数えます。

この間、日港連の会員各社は一貫して我が国の経済、産業を支える港湾・空港インフラの整備に携わり、建設業の立場から我が国の発展に寄与して参りました。

さて、安倍内閣が発足して早くも2年が経過しようとしており、デフレ経済脱却を目指して新たな成長戦略が展開されています。今年7月には今後の人口減少社会を見据えた「国土のグランドデザイン2050」が公表され、これによりますと2050年には総人口が1億人を下回り、地方圏では地域コミュニティの維持が困難となる地域が多発すると試算されています。こうした状況を踏まえ政府では、「地方創生」を重要課題と位置づけ、人口減少対策や地方活性化に取り組むこととされております。

全国津々浦々に所在する私どもの会員企業はこれまで地域の社会資本整備を担って参りましたが、これからも地域社会の活性化に貢献したいと考えております。しかしながら港湾空港建設業界は、これまでの事業量の減少と過度な受注競争により疲弊した状況から未だ脱却できず、このままでは災害対応など地域維持を担う建設業としての存続も危惧されます。

このような現状を踏まえ、私どもが抱えております当面の懸案事項につきまして、下記のとおり要望申し上げますので格別のご高配を賜りますようお願い申し上げます。

1. 港湾関係社会資本の計画的な整備推進

地方創生を推進し、我が国の経済を再生するためには、国際物流や地域経済を支える港湾機能の強化が必要です。

また、東日本大震災からの復興の加速とともに、今後発生が予想される大規模地震・津波に対する事前防災・減災対策の推進や施設の老朽化対策など安全・安心の確保も喫緊の課題となっています。

また、これら事業の推進に当たっては、整備を担う建設企業が設備投資などの経営戦略を立てられるよう、今後の事業量の見通しを明らかにすることが望まれます。

つきましては、厳しい財政状況下ではありますが、これら関係施策の推進に必要な予算を計画的かつ安定的に確保するとともに、今後の事業展開について地域ごとの中長期的な事業量の見通しを明らかにしていただきますようお願い申し上げます。

2. 港湾空港建設業の健全な発展が可能となる公共調達システム

公共工事品確法を始めとする担い手3法が今年6月に改正されました。改正の大きな内容としては、法律の目的に「将来にわたる建設業の担い手確保」が明記され、受注者が適正な利潤を確保できるよう発注者の責任が明確化されたことであり、大変心強く感じる次第です。

今後は、改正法が確実に履行され、港湾空港建設業が適正な利潤を確保し、これを将来への設備投資として更に成長に繋げるという好循環の流れができることを期待しております。

つきましては、港湾空港建設業の健全な発展が可能となるよう、以下の項目についてご検討いただきますようお願い申し上げます。

(1) 入札・契約制度の改善

①現場条件を踏まえた適正な予定価格の設定

特殊な現場条件での工事や小規模工事、維持補修工事など標準歩掛による積算が適切でない場合には、施工実態を反映させた適正な予定価格の設定を行うこと。

②調査基準価格の引き上げ

ダンピング排除、適正利潤確保に向けた一般管

理費・算定率等の更なる引き上げ。

③総合評価落札方式（二極化）の改善

受発注者双方の業務簡素化に資する運用の改善。

(2) 建設業の担い手確保に資する適正な工期設定

①ゆとりのある工期設定

必要な準備期間の確保や自然条件、工事の特性等を踏まえたゆとりのある工期の設定。

②施工条件の明示と適切な設計変更

当初標準案の工程計画の開示と現場条件に応じた適切な設計変更。

③フレックス工期や余裕工期の活用

労働者や工事資機材の調達、工事施工中の不測の事態への対応など工事を円滑に推進するためのフレックス工期、余裕工期の活用。

(3) 作業船の維持・保有のための環境整備

①今後の事業量の安定的な確保

作業船を安定的に維持・保有できるよう計画的な事業の実施。

②作業船建造にかかる融資制度の創設

作業船の共有建造制度や低利融資制度の創設。

③非自航作業船に係る固定資産税の軽減措置

非自航作業船に係る固定資産税を自航船舶並みに減免。

(4) 公共調達制度の港湾管理者等への指導強化

改正品確法の趣旨を踏まえ、公共調達制度について港湾管理者等への指導を強化。

港関係団体連絡会と北海道開発局担当者が意見交換会を開催

平成26年11月25日（火）北海道建設会館において港関係団体連絡会（中村弘之会長）は、北海道開発局と平成26年度港湾・空港・漁港の工事に関する意見交換会を開催した。

北海道開発局から港湾空港部の伊藤晃港湾建設課長、魚住聡空港課長、農業水産部の浅川典敬水産課長など10名が出席、港関係団体連絡会から中村弘之会長、山田悦郎副会長、石脇雅生副会長など港関係7団体から13名が出席して、「入札・契約に関する要望」「設計・施工に関する要望」について意見交換を行った。主な要望内容は以下のとおり。



北海道開発局



港関係団体連絡会

主 な 要 望 内 容

入札・契約に関する要望

1. 入札契約手続きの見直しについて
 - ①入札書等の提出期間
 - ②落札決定までの期間
2. 配置予定技術者の評価について
 - ①現場代理人の加点対象について
 - ②同種工事の施工実績
 - ③工事成績評価期間の拡大
3. 技術提案項目の評価結果について
4. 同種工事の施工実績について
5. 地域貢献度について
6. 施工パッケージについて
7. 部局単価・見積単価（歩掛）について
 - ①特許等を有する施工歩掛
 - ②見積単価
 - ③部局単価
8. 積算条件の明示について
9. 調査基準価格の引き上げについて

設計・施工に関する要望

1. 設計変更について
 - ①設計変更の迅速処理
 - ②地域外からの労働者確保
2. 海上工事における供用係数の適用について
3. 工事成績評定について
 - ①工程管理（休日作業）
 - ②創意工夫
 - ③浚渫工事
4. ブロック製作について
 - ①大型クレーンの拘束費用
 - ②雑材料
 - ③80tテトラポッドの配筋
 - ④直立消波ブロック据付作業における水中・陸上の区分
5. 捨石投入単価について
6. 作業船の回航（えい航）費・乗組員の旅費について
 - ①回航（えい航）費
 - ②乗組員の旅費
7. 冬期の舗装工事について
8. コンクリートについて
 - ①コンクリートのひび割れ
 - ②コンクリートの施工（設計基準強度）
 - ③コンクリートの海上運搬方法

経済と暮らしを支える港づくり全国大会を開催する

「経済と暮らしを支える港づくり全国大会」が平成26年10月23日（木）、東京都の砂防会館で開催された。主催は（公社）日本港湾協会、全国港湾知事協議会、全国市長会港湾都市協議会、日本港湾振興団体連合会、港湾海岸防災協議会の5団体でつくる実行委員会によるもの。会場には、北海道から沖縄県まで多数の港湾関係者が集まった。

大会は、来賓挨拶として全国市長会港湾都市協議会長林文子横浜市長、日本港湾振興団体連合会長篠田昭新潟市長、西村明宏国土交通副大臣の三氏が登壇、引き続き来賓紹介、港湾行政報告、港湾整備・振興に関する意見表明があり、最後に「今後の港湾整備・振興に関する要望書」の提案と決議を行って終了した。

「港湾の整備・振興に関する要望書」の項目

1. 東日本大震災からの復興加速
2. 成長戦略の具体化、地方創世・人口減少の克服
3. 国民の安全・安心の確保



北海道水産林務部 平成26年度 水産土木・森林土木工事等 優秀業者表彰

北海道水産林務部は、平成26年12月16日ホテル札幌ガーデンパレスで26年度工事等優秀業者感謝状の贈呈式を挙行了。同部所管の25年度完成工事等において、その功績がきわめて顕著で、水産林務行政の推進に尽力した水産土木部門・森林土木工事部門21社、委託部門4社に知事感謝状が手渡された。

表彰された優秀業者のうち、水産土木部門では当協会の(株)森川組、丹羽建設(株)、(株)西村組、葵建設(株)、渡辺建設工業(株)の5社が受賞した。森林土木部門では、(株)ササキ、(株)藤共工業の2社が受賞した。(株)ササキは、2年連続の受賞となった。



〔水産土木部門受賞〕

(株)森川組（函館市）	代表取締役社長	森川 基嗣
丹羽建設(株)（浜頓別町）	代表取締役社長	丹羽 幹典
(株)西村組（湧別町）	代表取締役	西村 幸浩
葵建設(株)（釧路市）	代表取締役社長	山中 博
渡辺建設工業(株)（根室市）	代表取締役社長	渡辺 寿一

〔森林土木部門受賞〕

(株)ササキ（稚内市）	代表取締役	佐々木正明
(株)藤共工業（興部町）	代表取締役社長	工藤喜代子

我が社の安全衛生管理

葵建設(株) 総務部次長 小幡 俊明

1. はじめに

当社は昭和26年に創業以来、総合建設業として鈎根管内を中心に港湾や道路工事、建築工事の事業を展開し今年で66年を迎えています。

当社は「融和」と「繁栄」という社是の基で役職員が一致協力し誠実に会社を盛り上げ、豊かな生活を目指し地域社会に貢献することを経営方針としています。

当社の半世紀以上に及ぶ歴史の中で特徴的なのは、早くから安全管理活動に取り組んだことです。中災防ゼロ災推進部（現、教育推進部）の指導をうけ、昭和58年に『ゼロ災運動キックオフ宣言』をし、危険予知研修や職長教育を協力業者を巻き込んで進めてきたことです。平成9年には、当時として中小企業では快挙であった中災防会長表彰を受賞し安全活動の評価をいただきました。



現在『ゼロ災運動推進宣言事業場』を宣言、また、安全旗を労働安全衛生旗に変更し、労働災害防止に向けて安全衛生教育を基にして安全衛生活動に取り組んでいます。



2. 安全衛生基本方針

前段でも述べましたが当社の安全衛生活動は、中災防のゼロ災運動に端を発していることから、ゼロ災運動の理念である「人間尊重」に基づいた職場風土を目指しています。その意味から当社の安全衛生基本方針は、スローガンとして、『人間尊重の理念を貫きゼロ災害をめざす!』と位置づけ、基本方針には

1. 法令順守による安全衛生管理体制の確立。
 2. 職場環境改善による快適職場の充実。
 3. 安全衛生教育による安全衛生意識の向上。
- の3点とし労働災害防止に努め、且つリスクアセスメントによる安全衛生活動も同時に進め、ゼロ災害を常に目指してい

るところです。

3. 安全衛生管理計画

毎年、年度当初には、店社安全衛生管理計画書を作成し、それに基づいて年間の安全衛生活動が始まりますが、当社においても、安全衛生委員会で前年度の反省を踏まえ、計画書を作成し、労働基準監督署へ提出しています。

計画書では、安全衛生基本方針に沿った重点実施事項を決め、その具体的な実施計画に基づいて安全衛生活動を行っています。

ここ1、2年労働災害の増加が労働局統計で示されていることから、リスクアセスメントの評価によるリスクの削減や残留リスクの管理による安全対策の強化も実施しているところ

4. 安全衛生活動

当社の一年間の安全衛生活動を紹介致します。

①安全衛生大会

5月工事着工期を前に、安全衛生大会を協力業者を含め開催しています。年度の安全衛生管理計画の発表や前年度工事で、安全衛生活動を推進した現場代理人に対し、安全衛生表彰状を贈呈しています。

また、安全講話では、鈎路管内の異業種で安全衛生活動に取り組んでいる事業場より講話をいただくことで、今後の安全衛生活動の参考とし、大変有意義な安全講話となっています。



②雇用管理研修

当社では、土木工事で直営の季節従業員を雇用していることから、毎年5月の雇用月に『雇入れ時の雇用管



理研修』を実施しています。

この研修では、安全担当者による安全講話やグループ討議による危険予知訓練など、一年間の安全衛生活動の基礎となる教育がされ現場に配置されます。

③トップ級安全パトロール

7月の全国安全週間に合わせ、当社の行事としてトップ級安全パトロールを毎年実施しています。安全パトロールで



は稼働している全現場を廻り、不安全な点があった場合は指示書による処置報告を求め、安全対策の強化を図っています。

④店社安全パトロール

毎月1回、安全衛生委員会メンバーを中心に、協力業者の参加も呼びかけながら、全稼働現場の安全パトロールを行っています。チェックシートを基に施工状況と安全書類の確認をし、不安全状態や不安全行動の有無や、安全書類をチェックして不備な点は指示書を発行し、改善処置を求めることで災害防止に努めています。



また、現場の状況や不備な設備等の写真撮影をして翌日



その写真をスクリーンで見ながら反省会を行い、全社的な安全衛生の取り組みとしています。

⑤安全衛生委員会

本社の安全衛生委員会は、毎月上旬に開催し、前月からの安全衛生関係報告、安全パトロールでの指示に対する処置報告、当月の安全パトロールの計画と続き、議題では釧路労働基準監督署管内で発生した労働災害の検証や、当社に当てはめた場合の対策などの検討、労働局や建災防からの通達事項の確認等、討議を行っています。

⑥職長教育

昭和55年より毎年度末にかけ、若手職員や協力業者の従業員を対象に、職長・安責者教育を開催しています。平成25年度までに再教育を含め修了者は、880名となり、現場第一線で職長として活躍をしていたり、すでに指導者として安全衛生に力を注いでいる方も多く輩出しています。

⑦安全衛生外部研修

当社の職員に対する安全衛生教育は、中災防の教育機関を活用し、受講することで安全管理の向上に生かしています。KYTトレーナー研修には、全社員を対象に毎年1～2名受講させ、職長教育の講師となるRST講座にも該当者を受講させています。職長教育の講師を担える職員は現在12名と道内を見ても非常に多い有資格者を抱えています。

また、全国産業安全衛生大会へも毎年2名派遣し、全国の事業場の安全衛生活動から得られたものを、社内で活用するなど、有意義な大会参加としています。



5. 作業所安全衛生活動

工事着工前に、工種毎のリスクアセスメントによるリスク評価を行い、その結果に基づいて安全衛生計画を立て、着工時には、不安全状態のない体制で工事に臨んでいます。残留リスクにたいしては、安全打合せ及び、日々の危険予知活動において、リスク対策をすることとしています。

建設業の三大災害対策でも、該当工種があった場合は、リスクアセスメントによる予防処置を盛り込んだ作業計画を立てるなど作業者に周知することで、リスクを回避する行動を取るようにしています。

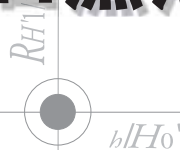
また、災害防止協議会や店社安全パトロールでの災害防止対策の指示事項を朝礼時に、あるいは安全衛生教育時に現場関係者全員に周知することで、安全最優先の作業を進めています。

6. むすびに

近年、労働災害が増加している状況で、当社としても災害防止対策を検討しました。リスクアセスメントや危険予知活動で本当に良いのだろうか。もっと協力業者に安全意識を持ってもらわなければならないのではないだろうか。検討した結果、協力業者の安全衛生に対する意識の向上が必要と考え、当社の工事に入る時は、必ず『送り出し教育』報告書を提出することで、安全衛生に対する意識の向上をしてもらうこととしました。この取り組みは現在100%とはいきませんが、急速な勢いで浸透しているところです。

この取り組みが当社だけに留まらず、釧路管内に定着することを期待し、むすびと致します。

ウトロ漁港人工地盤建設工事



岩倉建設株式会社 ウトロ漁港人工地盤工事事務所

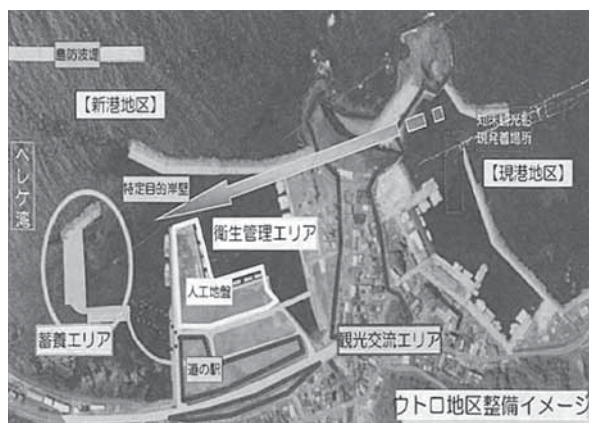
柴田 敏則

まえがき

ウトロ漁港は、北海道東部のオホーツク海に面した知床半島に位置する第4種漁港です。知床国立公園のオホーツク海側の玄関口となっており、多くの観光客が訪れます。平成17年には「知床」が国内3番目となる世界自然遺産に登録されました。

ウトロ漁港は定置網漁業を中心とした沿岸漁業が盛んに行われ、サケ・マス漁は全国的にも有名で、高品質な水産物の提供、ブランド化の推進が進められています。

本漁港は、気象、海象の変化が激しい知床海域の緊急避難や有数の水産基地としての役割を担っており、ウトロ地区は、地域マリンビジョンのモデル地区にも指定され、地域と一体化した漁港を目指しています。



整備イメージ図



人工地盤完成イメージ図

施設の目的とPC工法の概要

ウトロ漁港は昭和26年に第4種漁港に指定され、漁港の整備を進めてきましたが、漁船の大型化、背後地の不足などから、現在は現港地区西側に新港の整備を行っているところです。人工地盤は漁業活動の効率化・安全衛生の向上、高度な衛生管理による新鮮で高品質な水産物を供給するため、新たな空間として整備を行っています。

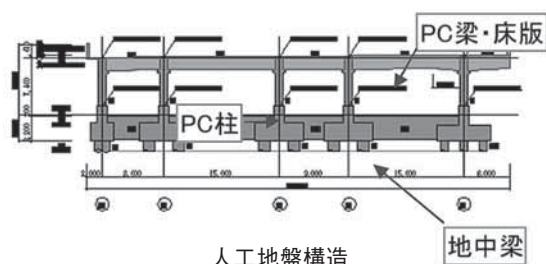
人工地盤はプレキャストプレストレス工法による2階建て構造で、1階部分は漁業関係施設、2階部分は近隣に道の駅、観光船発着岸壁があるため、知床観光と連携した駐車場となっています。

平成26年度工事はプレキャストプレストレス工法による施工の最終年度となっており、今後は荷さばき場、営繕施設等の他、道路等の外郭施設の施工が予定されています。

プレキャストプレストレス工法は工場であらかじめ製作した柱・梁・床版・壁等の部材を搬入し、クレーンにより架設組立し、PC鋼材を用いて圧着接合する工法で、床版上は現地にてコンクリート打設することにより合成されます。部材を工場製作することで現地作業の省力化、工期短縮が図られます。



作業状況 (全景)



人工地盤構造

地中梁

工事の作業状況

平成26年度工事は4月上旬からPC部材の製作を開始し、5月連休明けから現地での施工を開始しました。

PC梁部材は重量によって、大型トレーラーでの運搬が不可能な梁があり、分割して製作したものを現地で連結作業を行い、300t吊りの大型クレーンで架設を行いました。



大梁連結作業



大梁架設作業

梁の架設後に床版架設を行い、床版上に鉄筋を組立、コンクリートの打設を行い、コンクリート強度が基準強度を達成後に最終PCケーブルの緊張作業を実施しました。

PC部材の架設・床版のコンクリート打設の施工は10月末にはほぼ終了し、床版上の舗装工事を12月末まで行い、今年度の施工を終了する予定で工事を進めています。



トップコンクリート打設作業



最終PCケーブルの緊張作業

工事の留意点

工事を進めるにあたり、終点側が海に面しており、クレーンの設置場所が限定されるので、架設計画を厳密に行いました。

ウトロ漁港は有数な漁業基地であり、工事による海洋汚濁は漁業関係者に多大なご迷惑をかけることとなりますので、この点については慎重に作業を進めてきました。

一般者に対する対策として、工事区域への進入口が道の駐車場の入り口と隣接しており、夏場は観光客の出入りが多くなるため、PC部材等の車両搬入時間については早朝と定め、トラブル防止に努めてきました。

また、隣接工区も多く、ヤード・通路の共有化などを遅滞なく進めてきました。

あとかぎ

今年度工事も終了に近づいており、今後は冬期間特有の災害が懸念されるところですが、1月中旬の工期末まで無災害で工事が終了するよう努力していきます。



11月末のウトロ漁港全景

私の趣味

『好奇心』

五洋建設株式会社 札幌支店
大下 哲則

札幌支店に転勤となったのが、2012年4月。それまでは、出張で稚内・礼文に1回、札幌・苫小牧に2回訪れたことがある。いずれも2、3日の短期滞在であり、生まれ育った広島や、これまで生活したことのある京都、東京、シンガポールとは全くイメージの違う、あこがれの北の大地、北海道で、どんな出会いがあるのか、ワクワク感一杯のスタートでした。

北海道生活を始めるまでの「趣味」と言えば、サイクリング、ドライブ、旅行、温泉、ゴルフなどでしたが、この約3年間で楽しんだこと、初めて経験したことを、「私の趣味」とは言えないかもしれませんが、趣味とは好奇心の表現方法のひとつと思い、振り返らせていただきます。

①旅行と温泉めぐり

北海道では単身生活ですが、東京にいる妻は、もう10回も北海道に旅行に来ています。これまで、「函館・大沼と積丹半島」、「十勝から旭川への北海道ガーデン街道めぐり」、「然別湖、糠平湖、阿寒湖、摩周湖、屈斜路湖めぐり」、「旭岳、美瑛、富良野めぐり」、「知床峠から知床五湖」、「丸瀬布温泉と層雲峡」、「釧路SL号と網走流水オーロラ号」、「雪まつりと豊平峡温泉」、「ニセコ」など、いろいろと廻りました。ほとんどレンタカーでのドライブですが、気持ち良い風景を楽しみながら、渋滞知らずの爽快なドライブは北海道の魅力のひとつです。

旅行のもうひとつの楽しみが、何といても温泉です。記憶に残っている温泉は「八雲町の銀婚湯」、「十勝モール温泉」、「養老牛温泉」、「丸瀬布温泉」、「きよさと温泉」、「豊平峡温泉」、「吹上露天風呂」、「丸駒温泉」、「昆布温泉」、「湯本温泉」、「二股ラジウム

温泉」で、泉質がいろいろあるのはもちろん、川沿いや緑に囲まれた森の中、雪に埋もれた露天風呂などは、野趣いっぱいの北海道ならではの気持ち良さです。

②サイクリング

サイクリングを始めたのは、もう10年以上前です。最初は、ゴルフスイング安定には下半身強化が近道と始めましたが、しばらくすると、手軽にそして気持ち良く、いろいろな所へプチ旅行できる魅力に取りつかれました。札幌に来てまず走ったのが、「豊平川から石狩川を河口まで下って、小樽に立ち寄って、札幌まで戻る：走行距離105km」でした。5月の空は、快晴で、気温も湿度もサイクリングには最適で、気持ち良いの一言でした。それから、「札幌～支笏湖～千歳川～北広島～エルフィンロード：走行距離125km」、「札幌～定山渓ダム～札幌国際スキー場～朝里ダム～札幌：走行距離100km」、「札幌～由仁～夕張鹿鳴館～札幌：走行距離135km」、「輪行（JRで富良野駅）～富田ファーム～空知川沿いを芦別・赤平～JR滝川駅（輪行）：走行距離80km」と楽しんでいます。北海道は道も広いし、車も多くないし、そして何といても清々しい気候はサイクリングには最高の環境です。

③川下りとダイビング

札幌の知り合いから、「千歳川をドライスーツ着て、川下りしませんか？」と誘ってもらった時、これまでドライスーツなるものを着たこともなし、川下りって何？でした。「流れに身を任せて1時間くらい川を下るのは最高ですよ」との優しい言葉に甘えて、少し肌寒くなる2012年10月に、千歳川の中流へ連れて行ってもらいました。ちょうど、紅葉し



千歳川での川下り (2012年10月)



焼尻島でサフォークと (2013年 6月)



樽前山登山 (2013年 6月)



キロロ・スキーリゾート (2014年 3月)

ている時期で、川面に映る色とりどりの木々に包まれ、時おり出会う魚たちとすれ違いながらの1時間余りの川流れは、人生初めての素晴らしい経験でした。2013年の夏には、積丹ブルーで有名な積丹半島ダイビング、2014年の秋には2回目の千歳川の川下りにも連れて行ってもらい、感謝の気持ちでいっぱいです。

④スキー

スキーと言えば、夜行バスでスキー場へ行って、しかも寒くて、転んでばかりとあまりいい印象はなく、これまで3、4回しか行ったことがありませんでした。しかし、札幌周辺には、ニセコ、ルスツ、キロロ等、リゾート的なスキー場が近くにあり、そして何よりも、オーストラリアや東南アジアの人達が、わざわざ遠く北海道まで旅行にくる魅力は何だろう、近くににいるんだから自分でそのワケを知りたいとの好奇心から、昨シーズンの2月中旬から毎週末、ほぼ連続で7回、全て日帰りで、ルスツ、ニセコ、キロロ、札幌国際でスキーを楽しみました。まだまだうまくは滑れませんが、いろんなグレンデや雪が積もった山並みの風景を身近で経験できるのは、ほんとうに素晴らしいことだと思います。

⑥山登り

山登りと言っても、ハイキング程度ですが、最初の冬2月に雪の積もった円山公園に散歩に出かけた時、近くに藻岩山登山道なる標識を見つけ、人ひとりがやっと歩けるくらいの踏みしめられた登山道を登って、1時間半程度かけて標高531mの藻岩山に登りました。頂上から札幌市内を一望できる眺めは最高でしたが、それ以上に登山道途中の真っ白な雪道と青空のコントラストは、強く印象に残っています。その後、会社の人達と樽前山に登ったり、雨竜沼湿原、旭岳姿見の池、ニセヌプリ、大雪高原沼に行ったりと、手軽な登山を楽しんでいます。

その他、⑥ジンギスカン大使と焼尻島のサフォーク牧場訪問、⑦新冠や春香山での乗馬、⑧鶴居村のタンチョウ鶴や天売島バードウォッチング、⑨北海道で出会った美味しい日本酒、⑩パークゴルフなど、北海道で初めて経験した楽しい「趣味」を紹介できればと思いましたが、紙面の都合で、これくらいにさせていただきます。何事にも、「好奇心」を持って、これからも北海道生活を堪能できればと思いますので、お勧め情報をお持ちの方は、ぜひご紹介いただけると幸いです。

根室港弁天島市杵島神社のボランティアについて

～56年の歳月を経て、よみがえった市杵島神社～

根室港湾事務所工事安全連絡協議会 幹事 眞壁建設株式会社 山下 大介

船の汽笛が大きく鳴り響く、ここ根室港には漁業者にとって大きなシンボルがあります。それは根室港内の弁天島と呼ばれる島にある小さな神社、その名も「市杵島神社」です。漁師たちはその赤い屋根の神社を見て、安全操業を期して出港し、帰りは赤い屋根が見えてくると安堵感が出ると聞きます。その市杵島神社は歴史が古く、簡単にご紹介させていただきます。文化3年（1806年）に北方漁業開拓者の高田屋嘉兵衛が大漁を祝って建立されました。しかし、天保14年（1843年）に火災により焼失してしまいましたが、元治2年（1865年）に再建され、昭和33年（1958年）にはコンクリート造へと改築されました。余談ですが工期は約一年間もかかったとの話です。

我々、根室港湾事務所工事安全連絡協議会は災害防止へ積極的に寄与するため、発注者と受注者が連携して、工事の安全施策と活動を行うことを目的とした団体であります。活動内容としては出前講座などの講習会や協議会などの行事によって情報交換や安全教育を実施し、月に一度の安全パトロールで作業環境のより良い改善を図るものであります。この度のボランティア活動は、協議会での地域貢献の活動が何か出来ないかと思案していた根室港湾事務所の柿崎所長が、「神社のペンキ塗りでもみんなでやるか！」との一声で始まりました。事前段階として所有者及び島の現状を調べに協議会幹部で根室市役所へ出向き、所有者が金刀比羅神社である事を確認しました。あくまで根室市は港の管理だけとの事で我々は金刀比羅神社の宮司様とアポイントを取り、お話を伺いに向いました。そこでお聞きしたのは市杵島神社の現状は作られてから長い時間が経過しており、損傷が激しいとの事でした。そして我々の経緯や思いを伝えたところ、「なかなか修繕したくても出来ない。本当に有り難いお話です。」と大変感謝のお言葉を頂戴しました。そして我々は意気揚々と船に乗り込み、事前調査の為に弁天島へ渡りました。上陸したらまずは80mほどの砂浜を歩き、

背丈ほどの草が生い茂る草地を渡り、最後は坂を登って行かなければならない大変な道のりに神社はありました。神社へ到着すると陸から見る神社とは大違いで、宮司様が話していた通り、波浪による損傷が激しく「これは一大事業になるぞ」と怖気づきました（私だけ?）。こうして事前調査を行い、協議会の総会にて会員の了承を得て、いざ改修へと進み出しました。

まず初日は港湾事務所職員と地元業者のみで大量の草刈及び作業資材の一部搬入を行いました。二日目は協議会全体に声掛けを行い、総勢31名にて足場材のほか、補修に必要な水、セメント、骨材など、一個10kg～20kg程度の資材を全くの人力作業にて砂浜と坂道を汗だくになりながら、時にはお口の達者な皆さんを気遣いながら運搬を行いました。単管などを船へ積み込む作業や神社への斜面にて手渡し運搬となる為、朝のミーティング時にKY活動を行い災害防止に努めました。その後は足場の組立て、不良部の撤去、躯体補修、左官補修など地元の左官業者の指導のもとで作業を進めました。最終仕上



資材運搬



足場材運搬



朝礼



KY活動



塗装仕上げ

げとして、プライマー塗り、中塗り、上塗りをを行い完成になります。養生を行った後に足場の解体及び搬出作業となりました。

今回のボランティア活動に賛同しご協力いただきました協議会のメンバーを紹介させていただきます。釧路開発建設部根室港湾事務所・葵建設株式会社・あおみ建設株式会社・勇建設株式会社・鹿島道路株式会社・東洋建設株式会社・株式会社西村組・株式会社本田組・真壁建設株式会社・宮脇土建株式会社・渡辺建設工業株式会社、以上でございます。協議会会員の皆様方には約40日間に及ぶボランティア活動に現場管理の合間を縫って参加協力いただいたことに感謝申し上げるものです。地域の色々な方々から「良くやってくれた」とお褒めの言葉をかけていただき、40日間の苦労が酬われた気がしています。

終わりに今回ご協力いただきました、根室市役所・根室漁業協同組合・金刀比羅神社の関係各所におかれましては多大なるご尽力とご配慮を賜りました事を厚く御礼申し上げます。

根室港のシンボルがまた輝き出しました。皆様も来根された折には根室港へお立ち寄りいただき、是非とも我々の到底ボランティアと呼べないような出来の神社をご覧ください。

皆様、今後ともご安全に。



改修前



改修後



感謝状

礼文町豪雨災害時の港湾業務艇「りんどう」による支援運航

平成26年8月23日から24日にかけて礼文町を襲った豪雨により土砂崩れが発生し、住宅が全壊、2名の尊い命が犠牲になったことは記憶に新しいところである。この豪雨の影響により、道道元地香深線の桃岩トンネル付近でも多量の土砂崩れにみまわれ、24日8時から元地～香深間4.2kmが通行止めとなり、礼文島西岸に位置する元地地区の住民が孤立する事態となった。

このようななか、稚内開発建設部では、礼文町からの要請を踏まえた住民支援として、稚内港湾事務所に配備している港湾業務艇「りんどう」を8月27日から午前と

午後の1日2回、所要時間約20分の香深港～元地漁港間に運航させて、人と物資の輸送に当たった。

「りんどう」の運航は、元地香深線が片側1車線で緊急車両などの通行が可能となった9月1日の前日まで行われ、8月27日の運航開始からの31日までの延べ5日間の稼働実績は運航25回、乗船者数152人を数え、地域住民の貴重な交通手段、生鮮食料品などの生活物資の輸送に活用された。

(記事は北海道開発局HPから抜粋して掲載しました)



港湾業務艇「りんどう」



「りんどう」乗船状況

石狩湾新港で工事現場見学会を開催

現在、石狩湾新港西地区国際物流ターミナル整備事業の一環として、同港の基幹をなす北防波堤の延伸が進められているなか、10月16日に樽川埠頭で、北防波堤の本体となるケーソンを製作する「石狩湾新港ケーソン製作工事（受注者：岩倉・吉本経常建設共同企業体）」の工事現場見学会が小樽開発建設部主催により開催された。

見学会は、港湾整備の重要性や工事の技術特性のPRを主目的として、公募により参加を募った地域住民や自治体等職員を対象に、国内最大級のフローティングドック「たんちょう12000」を使用して製作中の長さ25m、高さ18.5m（5～6階建ビルに相当）、重さ約4,700t（大型トラック約500台分に相当）の巨大ケーソンを公開した。

当日は、時折小雨が降る肌寒い天候にもかかわらず約30名の参加があり、参加者は小樽開発建設部担当者から事業の目的や工事手順等の説明を受けた後、製作現場の主要箇所を移動しながら完成したばかりのケーソンを見学し、スケールの大きさに圧倒されていた。

参加者からは「ケーソンの高さに驚きました」、「フローティングドックの技術が素晴らしい」、「こんな大きなケーソンが水に浮くなんて不思議です」といった感想が寄せられた。

小樽開発建設部小樽港湾事務所の大前豊所長は、「今後もこうした現場見学会を積極的に行いたい」とコメントしている。



ケーソン製作の全景



担当者からの概要説明



見学状況

平成26年度 選奨土木遺産「松前港 福山波止場」

日本データーサービス(株)水工部 石川 成昭

このたび、松前港に残存する「福山波止場」が（一社）土木学会の選奨土木遺産に選定されましたので、その概要についてご紹介いたします。

松前（旧名福山）は、北前船航路の終着地の一つとして松前藩の交易により古くから栄えた港まちである。松前氏の居城だった松前城は、函館港開港の前年の安政元年（1854）に完成した我が国近世最後期の日本式城郭でもある。

今年度選奨された福山波止場は、松前城のたもと、北前船の係留に使われていた小松前と呼ばれる入江を囲む東西の磯に各1堤、海側をやや狭めた配置で築かれた。

その整備は、築城から程なくして迎えた幕末以降の松前の衰退を食い止めようとする地元の人々の動きに端を発している。明治6年（1873）、福山の商人、栖原小右衛門が自費で福山港内の崩落箇所修理と長さ14間（約25m）高さ1丈の（約3.3m）の石垣を築いた。それを見て開拓使福山出張所は、函館支庁に福山波止場建設を働きかけたが叶わなかった。そこで、福山の豪商有志達は栖原の1,000円を筆頭に22名から5,350円の寄付金を集め、さらに不足金6,000円を新政府から借り入れ、東側の大松前波止場約118mと西側の小松前波止場約154mを明治8年（1875）に着工して完成させた。着工時期は、福山城が天守等を除いて取り壊された時期と重なっており、波止場づくりに松前の復興を懸けたといえよう。施工については、五稜郭工事および松前城の石垣解体に携わった石工の井上喜三郎に依頼した。

その後、明治22年（1889）に小破修理、明治25年（1892）から3ヶ年の一大補修工事がなされた。3ヶ年の工事に関しては、明治27年（1894）の函館港の調査設計の中で“北海道セメントを先年福山港防波堤築造に使用して好結果を得ている”とも記されている。

現在、波止場は東側約65m、西側約71mが残存している。この延長は明治8年完成のほぼ半分となるが、当初の堤体が現状より陸側や沖側に長かったとは考えにくく、明治8年の延長は係留可能な波止場両側の延長を示した可能性も考えられる。堤体の構造は石積み（布積みの

練り積み）であるが、これも明治8年当初から練り積みだったとは考えにくく、明治25年からの一大補修工事で上磯産の北海道セメントを用いた練り積みと見なすことができ、北海道港湾における最も初期の練り積みコンクリート（コンクリート構造物）であると考えられる。

堤体の石材は、青石と呼ばれる緑色凝灰岩（グリーンタフ）で、松前城を解体した石材を開拓使から購入して再利用したものである。また、突堤周囲には岩盤を穿孔して立てた建石（石柱）が並んでいる。青石とは対照的な色合いの建石は、主に北前船のバラストとして積まれてきた瀬戸内の花崗岩とされている。

しかしながら、明治後半以降の北海道の海運は、船舶の大型化とともに函館や小樽を窓口とした近代港湾整備が進み、この波止場が利用や改修等の記録に登場することはなくなった。

時は流れ、昭和55年（1980）、突堤基部の湾上を跨ぐ国道228号松前バイパスが開通し、平成8年（1996）頃には、西側の基部側40m余りの区間で、堤体上部を歩行可能とした改修工事（臨海小公園化）が行われたが、沖側の約29mおよび東側全体は崩壊が進みながらも明治期の練り積みの姿が残存している。平成21年（2009）には西側突堤の基部に「道の駅松前」が開駅し、波止場の解説板を設置して、松前の観光にも一役買っている。

近世と近代を繋ぐ貴重な港の土木遺産として、今後とも広く親しまれていくことを期待したい。



波止場（東側）の全景



等間隔に並ぶ建石の孔



布積みの堤体と道の駅

イベント

函館港に色鮮やかな巨大ツリー

幻想的なイルミネーションで函館の冬の観光を彩るイベント「2014はこだてクリスマスファンタジー」が11月29日、金森赤レンガ倉庫群前の函館港で開幕した。色鮮やかに輝くメーンツリーに、訪れた多くの市民や観光客が歓声を上げた。

毎年開催し、今年で17年目を迎えた。高さ約20mの巨大ツリーは、函館市の姉妹都市カナダ・ハリファクス市

から届いた「幸せを呼ぶモミの木」で、約10万個のLED電球を設置。今回は、新幹線を意識して会場のカラーを紫や緑色で彩っている。

点灯は12月25日まで。毎日午後6時に点灯式を行う。また、23日、24日の両日はファンタスティック・イブ、25日はクリスマスナイト・セレモニーで聖夜を盛り上げる。

(記事は函館新聞から抜粋して掲載しました)



幻想的な光に彩られた巨大ツリー

小樽運河冬も周遊 【小樽発】

小樽運河で小型クルーズ船を運航する「小樽カナルボート」(小樽)は、11月13日から初の冬季営業を始める。12月上旬にも暖房の入ったほろ付きの船を就航させ、雪の降る厳冬期も運河周遊を楽しんでもらう。同社は2年前に営業を始め、今年は4月下旬から今月3日までに最多の5万5千人が利用した。昨年までは寒い冬の営業は見合わせてきたが、昨年度の小樽の観光客710万人のうち45%が下半期(10～3月)に訪れており、冬も需要があると見込んだ。ほろ付きの船は、ドーム状に透明な

ビニールをかぶせ、乗客が座る椅子に暖房を入れる。毎日午前10時～午後4時の間に1時間1便運航し、料金は夏季と同じ大人1,200円で冬季に引き続いて夏季も営業し、通年で運航する計画だ。同社は「寒い冬にどのくらいの利用があるかわからない。採算が合わないかもしれないが、小樽の冬季観光を盛り上げる意味でも踏ん張って続けたい」と話している。

(記事は北海道新聞から抜粋して掲載しました)



観光客に人気の小樽運河クルーズ。厳冬期には暖房の入ったほろ付きの船を運航する

大型客船寄港

 RH_{13}/H_0'
 b/H_0'

コスタ・ビクトリア入港 新幹線がお出迎え

函館港入港客船では平成26年最後の外国船となる「コスタ・ビクトリア」（7万5166トン）が10月21日、港町ふ頭に接岸した。岸壁には車両基地への陸送を待つ北海道新幹線H5系車両が陸揚げされており、中国からの乗客約2,100人を新幹線が歓迎した。

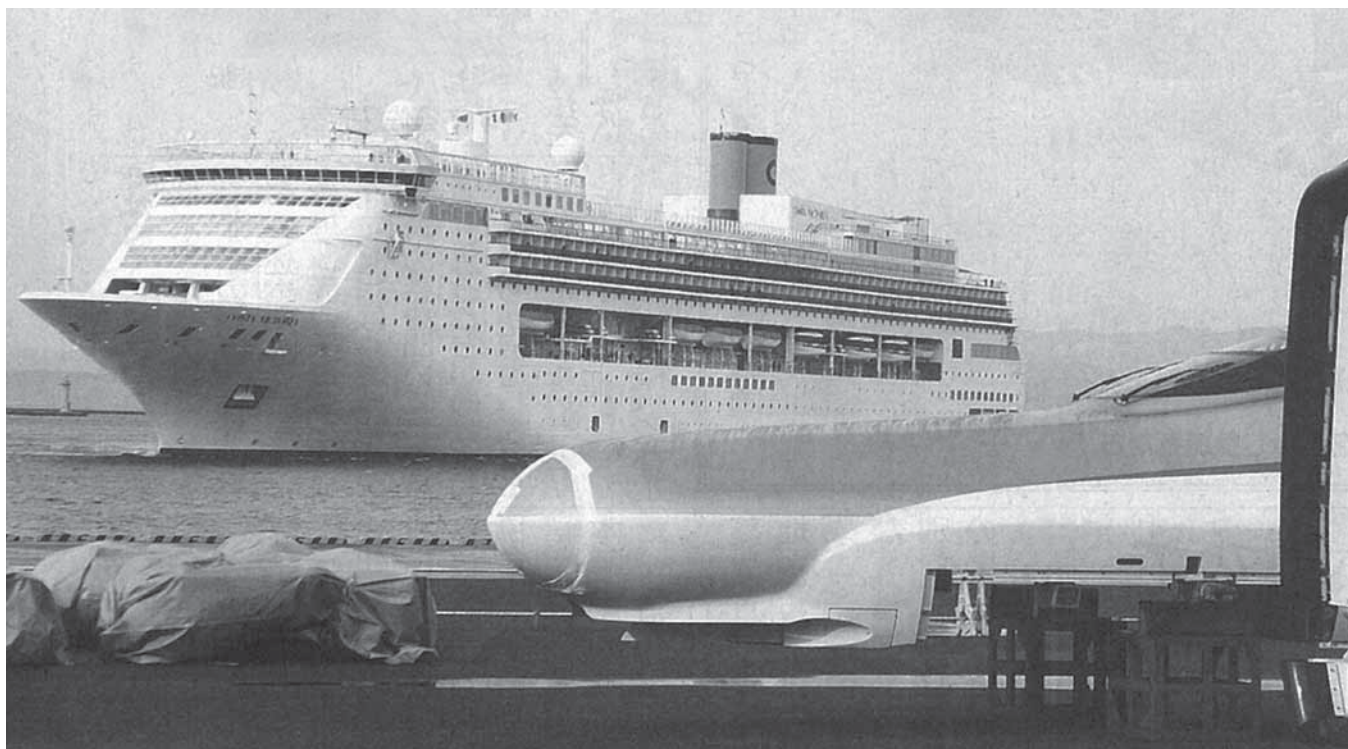
同船はイタリアのコスタ・クルーズ社が運行するカジュアル船で、函館寄港は平成25年9月以来3回目。中国・北京からのチャータークルーズで、小樽経由で函館入りし、同日夜に福岡・博多港に向かった。

クルーズ企画会社によると、中国本土では客船旅行の

需要が高まり、寄港地では団体での移動が主流という。岸壁には函館をはじめ、室蘭、札幌、帯広など道内各地のナンバーの観光バス50台以上が並び、乗客らは下船後、指定のバスに乗り込み、市内や周辺の観光に向かった。

また、新幹線車両は10月20日までに陸揚げされた車両で、最上級のシートがある「グランクラス」の姿も。船が接岸するまでの間、バスの運転手らも新幹線車両が並ぶ光景を物珍しそうに眺めていた。

（記事は函館新聞から抜粋して掲載しました）



陸揚げされた新幹線車両が並ぶ港町ふ頭に接岸した「コスタ・ビクトリア」

アムステルダム釧路港に初寄港

オランダ船籍のクルーズ船「アムステルダム」(6万2735トン)が10月3日、釧路港に初入港した。

アムステルダムは米国発着の太平洋ツアー中で、日本で最初の寄港地として、乗船客約千人を乗せて釧路港へ寄港。

着岸した耐震旅客船ターミナルに隣接する道立釧路芸術館では、市民団体などをつくる釧路港おもてなし倶楽部が乗船客向けの茶会を催し、釧路公立大茶道部の部員らが茶碗の絵柄などを説明しながらお点前を披露した。

釧路港では、過去最多24隻の入港を予定していた今年度のクルーズ船寄港は「飛鳥Ⅱ」が最後となった。

(記事は北海道新聞から抜粋して掲載しました)



釧路港に初寄港した「アムステルダム」



◎事務局だより◎

北海道港湾空港建設協会

【常任理事会】

常任理事会を平成26年11月25日（火）ホテル札幌ガーデンパレスで開催しました。

議題

1. 日港連運営委員会等について
2. 平成27年度 日港連会長表彰候補者について
3. 北海道開発局港湾空港部長への要望事項(案)について
4. 設立30周年記念行事について
5. その他

【広報委員会】

会報誌第84号発刊に向けた編集会議を平成26年10月15日（水）、KKRホテル札幌で開催しました。

【技術委員会】

技術委員会を平成26年7月25日（金）京王プラザホテル札幌で開催しました。

議題

1. 平成26年度行事予定について
2. 平成26年度活動方針について

技術委員会を平成26年11月19日（水）KKRホテル札幌で開催しました。

議題

1. 平成26年度北海道開発局港湾空港部長要望案について
2. 平成26年度港湾工事報告会について
3. その他

日港連・港湾空港建設協会共催による北海道開発局との要望・意見交換会を平成26年12月11日（木）ホテル札幌ガーデンパレスで開催しました。

港関係団体連絡会

【連絡会】

港関係団体連絡会を平成26年5月20日（火）TKP札幌駅カンファレンスセンターで開催しました。

議題

1. 平成25年度収支決算及び平成26年度収支予算(案)について
2. 要望項目の調査日程について
3. 役員の選任について
4. 北海道開発局との情報交換
5. その他

港関係団体連絡会議を平成26年10月3日（金）TKP札幌駅カンファレンスセンターで開催しました。

議題

1. 平成26年度要望事項について

港関係団体連絡会議を平成26年10月31日（金）北海道建設会館で開催しました。

議題

1. 平成26年度要望事項について

【意見交換会】

北海道開発局担当者との意見交換会を平成26年11月25日（火）北海道建設会館で開催しました。

議題

1. 懸案事項について意見交換
2. その他

港湾・空港・漁港事業に係わる要望・意見について北海道開発局と意見交換会を12月12日（金）ホテル札幌ガーデンパレスで開催しました。

北海道港湾振興団体連合会

「経済と暮らしを支える港づくり全国大会」が平成26年10月23日（木）、東京都の砂防会館で開催されました。

日本港湾空港建設協会連合会

【港湾局長意見交換会】

国土交通省港湾局長と日港連（理事全員、北海道から宮崎会長が出席）の意見交換会が平成26年11月14日（金）に国土交通省港湾局会議室で行われました。

【日港連セミナー】

第85回 日港連セミナー（中堅技術者対象）が平成26年7月3日（木）和歌山市で開催されました。

第86回 日港連セミナー（中堅技術者対象）が平成26年10月2日（木）新潟市で開催されました。

第87回 日港連セミナー（経営者対象）が平成26年11月13日（木）東京都アジュール竹芝で開催されました。

◎広報委員会だより◎

平成27年1月現在の広報委員は次表のとおりです。
今年もよろしくお願いします。

委員長	佐見 誠	東亜建設工業(株)
副委員長	白川 隆司	東洋建設(株)
委員(部会長)	小山 良明	白鳥建設工業(株)
(副部会長)	志賀 保	五洋建設(株)
(副部会長)	東 志郎	萩原建設工業(株)
	大西 治朗	菱中建設(株)
	櫻庭 榮	(株)中田組
	荒井 直人	東亜建設工業(株)
	毛利 照男	釧石工業(株)
	渡辺 修司	(株)菅原組
	大倉 正憲	勇建設(株)

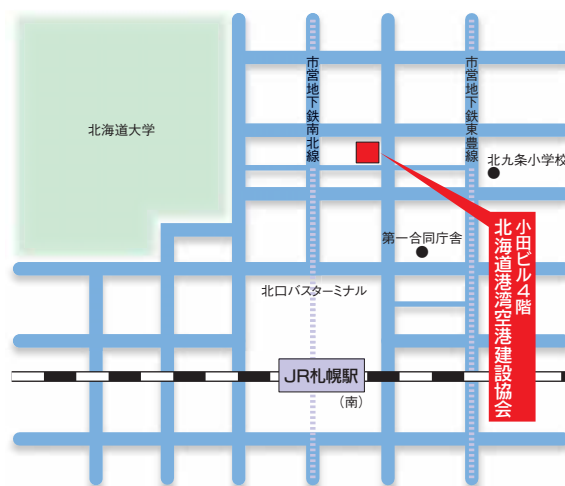


イカ陸揚げ状況



サケ陸揚げ状況

北海道港湾空港建設協会 案内図



会報「北のみなと」No.84

発行年月 平成27年1月
 発行 北海道港湾空港建設協会 会長 宮崎 英樹
 札幌市北区北9条西3丁目10-1 (小田ビル4階)
 TEL (011) 707-4731 FAX (011) 707-4733
<http://www.hokkaido-kkk.jp>
 Email: hkkk@h4.dion.ne.jp
 編集 北海道港湾空港建設協会 広報委員会
 編集責任者 小山 良明
 印刷 須田製版